

自第一號（平成二十六年六月）
至第四號（平成二十七年三月）

東洋史研究

第七十三卷 總目次

東洋史研究會

論 說

墓中の神坐——漢魏晉南北朝の墓室内祭祀——	向井 佑介	一	(一)
モンゴル時代華北地域社會における命令文とその刻石の意義			
——ダーリタイ家の活動とその投下領における全眞敎の事業——	船田 善之	一	(三五)
明朝の國家祭祀と佛教・道教・諸神	淺井 紀	一	(六七)
中國共產黨による黨史資料編纂の歩み——一九五〇年代の雜誌『黨史資料』を手がかりに	石川 禎浩	一	(九)
民國期の上海會審公廨における手續と慣例について——民事訴訟事件を例に——	郭 まいか	二	(五)
唐宋代の夜市	鹽 卓悟	二	(八六)
契丹・宋間の國信使と儀禮	古松 崇志	二	(二七)
潘平格の生涯と思想	早坂 俊廣	二	(五五)
清初科道官の構成と定員——定制への過程——	項 巧鋒	三	(三九)
金朝の外交制度と高麗使節——一二〇四年賀正使節行程の復元試案——	豊島 悠果	三	(三五)
孫詒讓「墨子後語」の儒墨論争観	小野 泰教	三	(三六)
漢譯地質學書に見る「西學東漸」——江南製造局刊『地學淺釋』を例として——	武上眞理子	三	(四三)
16世紀フアイユーム縣の水・税・記録管理			
——オスマン朝エジプト統治初期の水利行政に見る統治體制とその展開——	熊倉和歌子	三	(五六)
里耶秦簡にみる秦代縣下の官制構造	土口 史記	四	(五七)
東晉南朝における民間音樂の導入と尺度の關係について	戸川 貴行	四	(五四)

北宋時代の盜賊重法…………… 德永 洋介 四 (五七七)
モンゴル「獨立」問題と漢語概念——キャフタ協定にいたる交渉を中心に—— …… 岡本 隆司 四 (六二)

書 評

村上 衛著『海の近代中國——福建人の活動とイギリス・清朝——』…………… 藤原 敬士 一 (三六)
小野容照著『朝鮮獨立運動と東アジア——一九一〇—一九二五——』…………… 松田 利彦 二 (二九〇)
長田彰文著『世界史の中の近代日韓關係』…………… 糟谷 憲一 二 (二九六)
藤谷浩悦著『湖南省近代政治史研究』…………… 阿南 友亮 三 (四七)
武上眞理子著『科學マン・オブ・サイエンスの人・孫文——思想的考察——』…………… 高柳 信夫 四 (六四六)

紹 介

石澤良昭著『〈新〉古代カンボジア史研究』…………… 杉山 正明 二 (三〇七)

近 刊 叢 欄

一 (一四四) 二 (三三二) 三 (四六四) 四 (六五五)

大 會 抄 録

國信使の成立について…………… 毛利 英介 三 (四五六)
宣教師日記からみた二〇世紀初頭の珠江デルタ…………… 土肥 步 三 (四五六)

『丈量保簿』と『歸戸親供冊』——萬曆年間、徽州府休寧縣二七都五圖の事産所有狀況——	伊藤	正彦	三	(四九)
初期イスラーム時代におけるワリー・アルアフド	横内	吾郎	三	(四五)
一七世紀後半のサファヴィー朝對シヤム使節團をめぐって	守川	知子	三	(四〇)
近世バタヴィアとアジア船——アジア域内貿易の一斷面——	島田	竜登	三	(四〇)
モンゴル高原ホブド縣の洞窟墳墓出土の樂器銘文からみたイエニセイ・クルグズ情勢	大澤	孝	三	(四六)
中國古代の「書記官」	角谷	常子	三	(四六)
ヴラジスラヴィツチの對清交渉	松浦	茂	三	(四六)